

# 令和 2 年度 協力隊 OB と留学生が先生 ～見える・学べる・世界の国々～ 事業実施レポート



## 目次：

- (1) 国際理解って？
- (2) 帰国した青年海外協力隊
- (3) 小学校で
- (4) 中学校で
- (5) 事業実績
- (6) 先生方の声



## (1) 国際理解って？

私たちの生活を振り返ると、海外との関係なしでは成り立たないことばかりです。

食品や燃料はもちろん、衣類・家電製品など、それらの原料や労働力は世界の国々・人々に支えられています。また、鹿児島に住む外国人の方も増えています。外国の人々やその国の現状を知ること、私たち自身を知ることでもあるのです。

国際理解とは、私たちの生活と世界がどのようにつながっているのかを知り、その中で世界が抱える課題を自分事として共有することではないでしょうか。

実際に外国で生活していた日本人の話や、鹿児島で生活している外国人の話を聞いて、一緒に世界のこと、日本のことを考えてみましょう。



# 協力隊 OB と留学生が先生 ～見える・学べる・世界の国々～



## (2) 帰国した JICA 海外協力隊員

JICA 海外協力隊（青年海外協力隊・シニア海外協力隊）とは、開発途上国支援のため独立行政法人国際協力機構（JICA）が行っている派遣事業のひとつです。50 年以上の長い歴史があり、これまで世界 98 か国に 5 万人を超える隊員が世界各地で活動してきました。

鹿児島県出身の隊員も多く、これまで県内から派遣された隊員は、900 名を超えました。JICA 海外協力隊の主な目的の一つに、ボランティア経験の社会還元があります。帰国後はその経験を活かし、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会の一員として、帰国報告会を実施したり、県内各地のイベントへ参加したりと、積極的に活動しています。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、一時帰国を余儀なくされた隊員や、派遣再開まで待機をすることになった隊員が多くみられました。オンラインでイベントを実施するなど、新たな取り組みに挑戦し、島嶼地域を含む県内各地へのボランティア経験の社会還元に努めています。



**JICA 海外協力隊セミナー  
@オンライン開催**



**国際協力パネル展  
@かごしま国際交流センター**



**JICA 海外協力隊員報告会  
@かごしま国際交流センター**





# 協力隊 OB と留学生が先生 ～見える・学べる・世界の国々～



## (4) 中学校で…

国際協力について、自ら考え、実行に移すこともできる年齢の中学生。

時には講話だけでなく、ワークショップを通して課題を見つけ、解決に向けて主体的に考える力を育成するための授業も実施しています。

そろそろ進路についても考え始める感受性豊かな年代の彼らにとって、海外協力隊経験者が歩んできた道や、故郷を離れ日本で生活する留学生の話は、異文化理解としてだけでなく、自分の生活や将来について見つめなおすきっかけとなるようです。



「青年海外協力隊」私は大人になったら、日本と海外をつなぐ架け橋になれるよう、日本語教師になりたいと思っています。外国にたくさん興味をもち、その思いを行動に移せる人になりたいです。私も世界を通して活躍できる人になれるように、とにかく『動く』ことを大切にしていきたいです。  
生徒感想（一部抜粋）



### インド暮らしの魅力紹介

谷山北中 青年協力隊員が講話

鹿児島市山田町の谷山北中学校で22日、青年海外協力隊員の出陣式があった。インドに派遣された同市出身の竹原真さん（21）が、現地で活動内容や生活などについて講話した。

竹原さんは2019年7月から、養蚕農家としてのウツタラカンド州の州都テラワンで活動していたが、新年度からは同市出身のインド人、現職のインド人、現在、農業などに携わっている。竹原さんは「言葉が通じなくても、表情などで十分コミュニケーションがとれる。現地の人々とながら話した。



青年海外協力隊などについて学ぶ生徒たち＝鹿児島市山田町の谷山北中学校

生徒からは「インドを身近に感じられた」「語学で壁を感じる必要はないと分かり、自分もいろいろな国を訪れてみたい」との声が上がった。（方志館）



あまり聞いたことのないタンザニアについて知ることができて良かったです。タンザニアの学校について知り、自分の周りはすごく恵まれているのだなと改めて実感しました。全てに常に感謝して生活していきたいと思いました。



私も外国に行く時は、他国の文化などを否定せず、受け入れることができたらいいなと思いました。生徒感想（一部抜粋）

### 「協力隊 OB と留学生が先生プログラム」を聞いて考えたこと

私は海外青年協力隊の話を知り、将来の夢についての視野が広がりました。元々英語を使った職業に興味があったので、自分自身も一度は海外へ行ってみたいという思いがありました。しかし、英語が話せないと行けないという現実があり、自分自身も英語を勉強しようと思いました。また、協力隊OBや留学生の話を聞いて、海外で生活する人たちの苦労や楽しさを知ることができました。自分自身も海外で生活してみたいという思いが強くなりました。協力隊OBや留学生の話を聞いて、海外で生活する人たちの苦労や楽しさを知ることができました。自分自身も海外で生活してみたいという思いが強くなりました。



# 協力隊 OB と留学生が先生 ～見える・学べる・世界の国々～



## (5) 事業実績

敬称略

区分	市町村	学校名	講師	
			JICA OB/OG (派遣国)	在住外国人 (出身国)
鹿児島市 教育委員会	鹿児島市	西田 小学校	津平 由紀恵 (ガーナ)	黄 敬蓉 (台湾)
		錦江台 小学校	長嶺 快多 (バファニューギニア)	シン ジョンヒ (韓国)
		谷山北 中学校	竹原 辰昇 (インド)	—
		錫山 中学校	津平 由紀恵 (ガーナ)	カオ ティトゥイ スオン (ベトナム)
鹿児島市 教育事務所	日置市	伊作田 小学校	竹原 辰昇 (インド)	グエン ヴァン トゥ (ベトナム)
		永吉 小学校	塚田 拓 (コスタリカ)	—
	いちき 串木野市	生福 小学校	永野田 彩 (ジブチ)	グエン ヴァン トゥ (ベトナム)
		荒川 小学校	平田 華代 (モロッコ)	サナブリア ティエゴ (パラグアイ)
南薩 教育事務所	枕崎市	枕崎 中学校	木原 和代 (パラグアイ)	—
		桜山 小学校	竹原 辰昇 (インド)	黄 敬蓉 (台湾)
		立神 小学校	深澤 幸子 (ブルキナファソ)	—
		別府 小学校	漣 舞 (パルー)	—
		桜山 中学校	仮屋 慶一 (モルディブ)	孟 卓然 (中国内モンゴル)
北薩 教育事務所	出水市	西出水 小学校	仮屋 慶一 (モルディブ)	—
		江内 小学校	仮屋 慶一 (モルディブ)	—
		出水 中学校	長嶺 快多 (バファニューギニア)	グエン ティトゥ (ベトナム)
	薩摩 川内市	川内中央 中学校	本田 隆一 (トンガ)	グエン ティトゥ (ベトナム)
	さつま町	求名 小学校	本田 隆一 (トンガ)	—
	長島町	平尾 小学校	田中 久雄 (インドネシア)	レ ホアン クック (ベトナム)
始良・伊佐 教育事務所	霧島市	中津川 小学校	永野田 彩 (ジブチ)	—
		国分西 小学校	前原 無量 (スリランカ)	ミヒヤエル シレニ (ドイツ)
		天降川 小学校	竹野 愛 (タイ)	—
		牧之原中学校 若駒分校	徳峰 みゆき (ブラジル)	ファン ヒョンムク (韓国)

区分	市町村	学校名	講師	
			JICA OB/OG (派遣国)	在住外国人 (出身国)
始良・伊佐 教育事務所	伊佐市	田中 小学校	仮屋 慶一 (モルディブ)	—
		山野 小学校	永野田 彩 (ジブチ)	—
	始良市	錦江 小学校	永山 俊介 (中国)	—
		湧水町	吉松 中学校	竹野 愛 (タイ)
大隅 教育事務所	曾於市	岩北 小学校	下松 裕和 (ブラジル)	カンデル ミトラ プラサド (ネパール)
	志布志市	有明 小学校	平田 良幸 (ドミニカ共和国)	—
	肝付町	国見 中学校	丸野 里美 (カンボジア)	ホサイン シャハジャダ (バングラデシュ)
熊毛 教育事務所	中種子町	増田 小学校	近森 章 (ラオス)	角野 百合加 (中国)
		岩岡 小学校	塚田 拓 (コスタリカ)	—
		野間 小学校	日高 かおり (ザンビア)	—
大島 教育事務所	宇検村	田検 中学校	向田 めぐみ (ブータン・ソロモン諸島)	角野 百合加 (中国)
	天城町	天城 中学校	西 星良 (タンザニア)	—
	伊仙町	面縄 小学校	塚田 拓 (コスタリカ)	グエン ティトゥ (ベトナム)
阿権 小学校		塚田 拓 (コスタリカ)	シン ジョンヒ (韓国)	
特別支援 学校	—	鹿児島 養護学校	—	黄 敬蓉 (台湾)

令和2年度実施：38校  
(19市町村)



# 協力隊 OB と留学生が先生 ～見える・学べる・世界の国々～



## (6) 先生方の声 (一部抜粋)

### 【先生方が抱えている問題など】

- ❖ 実際に海外に住んだことがある方等の話をもっと聞きたいが、チャンスが限られている。
- ❖ インターネット等は普及しているものの、実生活では離島ということもあり、子供たちはやや閉鎖的な環境で育っている。空間的な広がり意識させながら、日本・海外・世界へと目を向けさせるような学習も意識しながら教育活動を展開していかなければならない。
- ❖ コミュニケーション能力の観点から、日本語はもとより方言等も大切に育てながら外国語（英語）教育の充実も図っていかなければならない。
- ❖ まずは自国のことさえも知らない現状のため、世界のことをとらえにくい。
- ❖ もっと色々な体験の場を設定したいが、他の教科の授業時数の関係もあり、なかなか充実させられない。
- ❖ 交通の便が悪いため、国際交流ができるイベントに積極的に参加することができないこと。

### 【授業を終えて…】

- ❖ 民族衣装（アオザイ）を着て話をされることで、子供たちは自分とは違った国について想像をふくらませたようだった。
- ❖ 身近な自然の大切さや、何か一つ続けることの大切さにも触れていただき、貴重な時間だった。
- ❖ ペルーという国については児童の知識も少なく、新鮮でした。日本以外の国について知ることは、相手を理解することにもつながるので、有意義だった。
- ❖ コロナ禍の中だったため、グループワーク等が取り入れられず残念であったが、それでも生徒たちが講師の話に関心を示していたのでよかった。
- ❖ 授業の時だけの学びになってしまいがちなので、そうならないよう掲示物等でも興味を持たせる機会を提供していきたいです。
- ❖ 質問に沢山答えて頂き、より理解を深められた。



## 実行委員会構成団体



鹿児島県青年海外協力隊を支援する会  
<http://www.kagojocv.com/>



青年海外協力隊鹿児島県 OB 会



公益財団法人鹿児島県国際交流協会  
<https://www.kiaweb.or.jp>

### 「協力隊 OB と留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～」事業 実行委員会

〒892-0816

鹿児島市山下町 14 番 50 号かごしま県民交流センター1 階 公益財団法人鹿児島県国際交流協会内

TEL : 099-221-6620 FAX : 099-221-6643 E-mail : [kia@kiaweb.or.jp](mailto:kia@kiaweb.or.jp)